

ナシ花粉の自家採取による安定生産支援

農業技術センター普及指導部

実施期間: 令和6~8年

課題・目的

■ 中国における火傷病の発生に伴い、令和5年8月に、中国産ナシ花粉の輸入が停止となった。当時、JAさがみ管内のナシ生産者の60%程度は受粉に輸入花粉を使用していたことから、受粉用花粉の不足が懸念された。

■ そこで、令和6年産ナシの生産量を現状どおり確保するため、花粉自家採取の手法を速やかに普及するとともに、花粉採取専用樹の導入を支援する。

活動内容

■ 当面の受粉用花粉の確保(切り枝を活用した花粉採取技術)

- ・ JAさがみと協力し、‘豊水’の切り枝を使った花粉の採取試験を実施した。開花前に花芽が多く着生した枝を採取して加温したところ、約100本の切り枝から10aのナシ園に必要な受粉用花粉が得られること確認し、花粉確保量の目安を示した。
- ・ 受粉樹を植栽していない経営体に対して講習会や巡回を通じ、冬季剪定時に枝の一部を樹上に残して春に採取し、切り枝から花粉を採取する方法を指導した。



図 切り枝の加温の様子

■ 継続的な花粉の供給体制の整備

- ・ 花粉採取専用樹の選定や育成方法、花粉の採取・精製方法などを記した「ナシ花粉確保マニュアル」を作成・配付し、花粉採取専用樹導入に向けた指導を行った。
- ・ その結果、新たに26経営体で花粉採取専用樹を導入した。

今後の展開

■ 花粉採取専用樹の導入や人工授粉に使用する花粉採取技術習得の支援を通じ、ナシの安定生産の継続を図る。